

リフロー炉法とオーブン法による燃焼試験結果の違い

○リジットのプリント配線板にオーブン法、リフロー炉法(260°Cピーク温度/6サイクル)それぞれのサーマルストレスを施し、燃焼性試験(V燃焼性試験)を施した。

V燃焼性試験結果(FR-4.0材)

	オーブン法 (燃焼合計時間 n=5)		リフロー炉法 (燃焼合計時間 n=5)	
	As Received	After Aging	As Received	After Aging
グレードA (FR-4.0材)	V-0 (15秒)	V-0 (14秒)	V-0 (12秒)	V-0 (7秒)
グレードB (FR-4.0材+レジストインク)	V-0 (17秒)	V-0 (20秒)	V-0 (17秒)	V-0 (15秒)

リフロー炉法でもあまり結果の変化は見られなかった。
ただし材料に依存する可能性あり。